日本国際理解教育学会
第 20 回研究大会プログラム

主　催
日本国際理解教育学会

後　援
文部科学省　日本ユネスコ国内委員会　東京都教育委員会　渋谷区教育委員会
独立行政法人国際協力機構（JICA）　特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）
特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議（ESD-J）
聖心女子大学

大会会場

聖心女子大学
宮代ホール、2 号館 2 階、3 号館 3･4 階
（〒150-8938　東京都渋谷区広尾 4-3-1）

大会日程

7 月 2 日（金）

時間	プログラム内容
17:00－18:15	特別記念講演会（松浦晃一郎前ユネスコ事務局長）
18:30－19:50	理事会

7 月 3 日（土）

時間	プログラム内容
9:00	受付開始
9:30－12:00	自由研究発表
12:00－13:00	昼食
13:00－14:00	20 周年記念基調講演会（佐藤学東京大学教授）
14:00－17:00	記念シンポジウム
17:00－17:50	総会
18:00－20:00	懇親会

7 月 4 日（日）

時間	プログラム内容
8:30	受付開始
9:00－12:00	自由研究発表
12:00－13:00	昼食
13:00－16:30	特定課題研究発表
16:30－18:00	特別企画（1）JICA 地球ひろば訪問
16:30－17:15	特別企画（2）聖心女子大学キャンパスツアー ～聖心の ESD を支えているもの～

第 20 回研究大会特別記念講演会（要旨）
松浦　晃一郎（前ユネスコ事務局長）

「グローバリゼーション時代の国際理解と日本の課題」

ユネスコは第 2 次大戦直後の 1945 年 11 月にその設立総会がロンドンで開催されその 1 年後の 11 月に発足した。ユネスコ憲章の前文の最初の文章は「戦争は人の心の中にまず生まれるので人の心の中に平和の砦をきづかなくてはならない」となっている。これがまさにユネスコ精神であり、第 2 次大戦の様な大戦争を未然に防ぐためには諸国民の間の交流を進め相互理解を進めて戦争の原因となるような誤解を生じないようにしなければならない、という事がユネスコ憲章に高らかに詠われている。

上を踏まえ、ユネスコは設立後、諸国民間の交流と相互理解を進めることに力を入れ、また若い人たちにそのような交流の重要性を教える為に、国際理解教育の推進に力を入れて来た。そのような国際理解教育を進めるためには何といっても右をしっかり教える事のできる教員を養成する事及びその内容をきちんと盛った教材を作ることが重要となってくる。したがってユネスコはこれらについて国際理解教育推進の一環として力を入れている。

21 世紀に入り非常に遺憾な事に 2001 年に 9･11 事件が勃発した。9･11 事件は決して異なる文明間の衝突を意味するものではなかったものの、9・11 事件に至るまでの経緯、及び同事件に対する各国の反応を見ると 21 世紀にはいっても国際理解教育が非常に重要である事を示している。従ってユネスコとしては引き続き国際理解協力の精神に重点をおいてきている。

20 周年記念基調講演会（要旨）
佐藤　学（東京大学教授）

「21 世紀の学校における国際理解教育」

19 世紀から 20 世紀にかけての国民国家の時代の学校が「国民の教育」を中心的使命としていたのに対して、21 世紀の学校の中心的使命はグローバリゼーションのもとで「市民の教育」（地球市民、日本社会の市民、地域社会の市民）へと移行している。この転換の位相に即して「国際理解教育」それ自体が国際化される必要がある。「国際理解教育」という呼称と概念は日本特有のものであり、その概念をグローバルな標準に照らして再定義する必要がある。「国際理解教育」という範疇をグローバルな標準に即して再概念化すれば、「多文化教育」（multicultural education）、「市民性の教育」（citizenship education）、「環境教育」（environment education for sustainability）そして「平和教育」（peace education）の諸領域の研究と実践の展開が求められる。これらグローバル化時代のカリキュラムの諸概念は、新学習指導要領においては言葉としても概念としても明示されていない。この限界を「国際理解教育」は、どのように克服しうるのだろうか。その具体的な方途を理論的かつ実践的に検討することを、この講演においては企図している。

日本国際理解教育学会
第 20 回研究大会記念シンポジウム（概要）

日本国際理解教育学会の到達点と展望
—第 20 回研究大会を記念して—

第 20 回大会は学会の節目となる記念大会ですので、学会の活動 20 年をふりかえり、未来を展望することをシンポジウムのテーマとします。第 19 回大会で試行した会員参加型ワークショップを取り入れ、「理論と実践をつなぐ」「学校と外部をつなぐ」「国際理解の学習領域をつなぐ」といった３つのテーマについて、課題提案者とともに会員相互が話し合い、これからの学会のあり方と課題について認識を深めていきたいと考えております。

趣旨説明:藤原孝章（同志社女子大学）
全体会Ⅰ：米田伸次前会長（帝塚山学院大学)、大津和子副会長（北海道教育大学）
課題別分科会

（1）「国際理解教育の理論と実践をつなぐ」
司会進行：成田喜一郎（東京学芸大学）
横田和子（聖心女子大学）
記録報告：祐岡武志（奈良県立法隆寺国際高校）
南美佐江（奈良女子大学附属中等教育学校）
課題提案：渡部淳（日本大学）
伊井直比呂（大阪教育大学附属高等学校池田校舎）

（2）「国際理解教育の学習領域をつなぐ」
司会進行：石森広美（宮城県仙台東高等学校）
野中春樹（広島なぎさ中・高等学校）
記録報告：山中信幸（柳学園中・高等学校）
磯田三津子（京都橘大学）
課題提案：中山京子（帝京大学）
小関一也（常盤大学）

（3）「国際理解教育の学校と外部をつなぐ」
司会進行：石川一喜（拓殖大学）
北山夕華（名古屋大学）
記録報告：福山文子（JICA 横浜海外移住資料館）
今田晃一（文教大学）
課題提案：森茂岳雄（中央大学）
山西優二（早稲田大学）

全体会Ⅱ：藤原孝章（同志社女子大学)、多田孝志会長（目白大学）

日　時：2010 年 7 月 3 日（土）午後 2 時 10 から午後 4 時 50 分まで
場　所：全体会場—3 号館 1 階宮代ホール
課題別分科会場—3 号館 3 階 332 番教室、4 階 342 番教室、2 号館 2 階 25 番教室
進行の概要
14：10-14：20　あいさつ、趣旨説明、シンポジウムの進め方
14：20-14：50　全体会Ⅰ
14：50-16：10　課題別分科会
16：10-17：00　全体会Ⅱ：各分科会の報告、全体での振り返り、まとめ

日本国際理解教育学会
特定課題研究発表（概要）

グローバル時代のシティズンシップと国際理解教育

ユネスコが提唱し日本に大きな影響を与えた「国際理解教育」は、当初は「世界市民性の教育」などと称され、シティズンシップの教育として出発しました。今日、グローバル化が急速に進展する中にあって、どのようなシティズンシップが必要とされているのか、それは日本の国際理解教育の概念や理論、実践にどのような変容を迫るのか、各登壇者に提案していただきます。北海道大会で提起された「転換期の国際理解教育」の課題をふまえ、これからの国際理解教育のありかたを皆さんと共に考えましょう。

司　会：嶺井明子（筑波大学）
報告者：小関一也（常盤大学）、岡崎裕（プール学院大学）
　　中山あおい（大阪教育大学）、桐谷正信（埼玉大学）
コメンテーター：宇土泰寛（椙山女学園大学）

日　時：2010 年 7 月 4 日（日）午後 1 時から午後 4 時まで
場　所：3 号館 1 階宮代ホール

特別企画

特別企画は次の二つにご参加いただけます。ご希望の方は、事前に次のメールアドレスに標題を「特別企画」として、お申し込みください（締切：6 月 21 日(月)）。なお、「JICA 地球ひろば訪問」は 30 名になり次第、締切らせていただけます。

(1) JICA 地球ひろば訪問（4 日 16:30~18:00）
(2) 聖心女子大学キャンパスツアー「聖心の ESD を支えているもの」（4 日 16:30~17:15）

※　特別企画の申込みに関する連絡先
日本国際理解教育学会第 20 回研究大会実行委員会事務局：kokusai@pobox.com

上記のアドレスに標題を「特別企画」として、【お名前、ご所属、希望企画名（JICA 地球ひろば訪問・聖心女子大学キャンパスツアー)】をご記入の上、送信してください。

自由研究発表

自由研究発表（個人）は報告 20 分、質疑応答 10 分の 30 分、共同研究発表は報告 20 分または 30 分、質疑応答 10 分です（注）。ご発表者でパワーポイント等をお使いになる方は、十分に時間的ゆとりをもって発表前のご準備をお願いします。各教室には、PowerPoint97-2004 プレゼンテーション（.ppt）のパソコンが用意されております。なお、韓国語で発表される研究報告には通訳がつきます。

（注）発表の時間帯は分科会で異なりますので、詳細は当日配布の抄録をご覧下さい。

第 1 日（7 月 3 日）第 1 分科会～第 8 分科会

■ 第 1 分科会「ESD（持続発展教育／持続可能な開発のための教育）」：会場 331 教室

司会：伊井直比呂（大阪教育大学附属高等学校池田校舎）
石川一喜（拓殖大学）

⑴ ESD に求められる価値観－環境倫理の視点から－
聖心女子大学大学院　曽我幸代
⑵ 多文化アイデンティティ形成における ESD の役割－内なる多文化共生に向けて
玉川大学　小林亮
⑶ 葛藤のケアによる学びの編み直しの検討
聖心女子大学　横田和子
⑷ ESDFA（万人のための ESD）への助走的研究
東海大学　岩本泰
⑸ 少数民族の文化および言語の持続可能性の実現に向けて～フィンランド　サーミを事例に～
越谷市立富士中学校／東京大学大学院　飯島眞

■ 第 2 分科会「異文化間教育」：会場 332 教室

司会：今田晃一（文教大学）
中山京子（帝京大学）

⑴ ユネスコ・世界寺子屋運動－話し合い、共感し、参加し、意欲を高め、結び合う人間活動を目指して－
公文国際学園高等部　川上誠
⑵ ものづくりから広がる国際理解－カナダ北西海岸先住民の木箱作りを通して－
葛城市立磐城小学校　山田幸生
立命館守山中学校　木村慶太
奈良教育大学　吉田誠
⑶ 発達段階の相違性を活用するカンボジア協同学習－中学・大学生・高校生間の「学びの相互作用」とその発展性について－
茨城県立取手松陽高校　大滝修
⑷ アイヌの先住民族交流と異文化間理解教育講師育成－事例研究から－
九州大学　ゲーマン・ジェフリー
⑸「多文化社会における地域コーディネーターのあり方について」～北陸の事例から～
（財）自治体国際化協会　阿部一郎

■ 第 3 分科会「多文化共生」：会場 333 教室

司会：吉村雅仁（奈良教育大学）
渡部淳（日本大学）

⑴ 人種間対立を改善するための教育についての研究－コンタクト仮説によるエリン・グルーウェルの授業実践分析－
中央大学大学院　小川修平
⑵ 多様性を育む「場」に関する一考察－自己と他者への気づきを深めるためのピア･エデュケーションの実践観察から－

聖心女子大学大学院　吉田直子

(3) 『対話的学びのネットワーク』構築による日韓歴史討論学習
神奈川県立麻生高校／首都大学東京講師　風巻浩

(4) 韓国企業における持続発展教育のためのマナビ学的アプローチ
延世大学　HAN, Zun-Sang
延世大学大学院　HWANG, Tae-Hong

(5) 韓国の多文化教育の現状分析
延世大学大学院　JO, Soo-Jin

■ **第4分科会「国際交流」：会場334教室**

司会：服部圭子（近畿大学）
丸山英樹（国立教育政策研究所）

(1) 外国人児童と日本人児童の異文化適応に関する研究
上越教育大学大学院　萩原南

(2) 外国人児童・生徒教育と「公共性」－シカゴ公教育政策「Renaissance2010」への批判を手掛かりとして－
お茶の水女子大学大学院　福山文子

(3) 菜食の平和教育的意味
延世大学大学院　PYEON, Do-Wook
延世大学大学院　SONN, Ka-Yeon

(4) 多文化概念の比較研究
光云大学　KIM, Seong-Gil
延世大学大学院　PARK, Jin-Hee

■ **第5分科会「学校における国際理解教育」：会場341教室**

司会：石森広美（宮城県仙台東高校）
中山博夫（目白大学）

(1) 国際理解教育における家庭科の役割－生活文化の歴史的理解からのアプローチ－
日本福祉大学大学院　木林祥子

(2) 国際理解教育の現状と課題－横浜市の小学校教員への調査を通して－
聖心女子大学大学院　高田小百合

(3) 県立進学校における国際理解教育
福岡県立福岡高校　鹿野敬文

(4) 英国パブリックスクールにおける柔道教育－イートン校を中心に－
鹿屋体育大学　平沢信康

(5) ヒト・モノ・チエを活用した「ニーズ対応型」および「創造型」の教育支援活動－桜美林草の根国際理解教育支援プロジェクトの活動から－
桜美林大学　清水貴恵
桜美林・草の根国際理解教育支援プロジェクト　岩本貴永

■ **第6分科会「東アジアの国際理解教育」：会場342教室**

司会：大津和子（北海度教育大学）
成田喜一郎（東京学芸大学）

(1) 価値観の変容をめざした対話的交流の試み～日中大学院生の相互理解を事例として～
中央大学大学院　津山直樹
中央大学　森茂岳雄
北京師範大学　姜英敏

(2) 中学校社会科における「米」を素材にした教材開発－日中韓の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発－
同志社中学校　織田雪江
全北大学校　林慶澤
埼玉大学　桐谷正信
ソウル金北小学校　CHA, Boeun

(3) ラーメン教材の実践とその分析－中国・北京第二実験小学校での実践を中心に－

文化女子大学　栗山丈弘
人民教育出版社課程教材研究所　郭雯霞
北京第二実験小学校　周暁超
同志社女子大学　藤原孝章
聲浦中学校　徐京田

■ **第7分科会「多文化共生」：会場343教室**

司会：淺川和也（東海学園大学）
上別府隆男（東京女学館大学）

(1) 学芸員養成課程における授業実践の一試み～モノ、自分との対話をめざして～
近畿大学　近藤真理子
(2) コミュニティの特質に応じた多文化共生と保育
京都橘大学　磯田三津子
(3) 多文化社会で名前がもつ意味－韓国における国際結婚女性の改名からみえるもの－
中央大学校　金仙美
(4) Research on the perceptions of multicultural education
Multicultural Museum（多文化博物館）　KIM, Yun-Tae
(5) 多文化家庭子どもの二重言語教育現況　プチョンムジゲ週末学校を中心に
梧亭小学校 KIM, Kapsung

■ **第8分科会「平和教育」：会場344教室**

司会：釜田聡（上越教育大学）
山西優二（早稲田大学）

(1) 平和教育研究の到達点と課題－国際理解教育との接点に着目して
東京女子大学　竹内久顕
(2) ドイツにおけるASPnetを活かした平和教育のESDへの接合性
フェリス女学院大学　高雄綾子
(3) かつての敵国との国際理解教育の内容構成について－『独仏共通歴史教科書』を手がかりとして－
大阪府立三島高校　松井克行
(4) 仏独関係の教材化～小学校社会科の戦後史学習における歴史・政治学習の統合的内容構成～
岩国市立愛宕小学校　松村淳
(5) ガンディーの共生観と平和観に関する一考察
上越教育大学　田島弘司

第2日（7月4日）第9分科会～第14分科会

■ **第9分科会「ESD（持続発展教育／持続可能な開発のための教育）」：会場331教室**

司会：小関一也（常盤大学）
小林亮（玉川大学）

(1) 日本におけるESD実践校の可能性と課題－ホールスクール･アプローチの視点から－
聖心女子学院初等科　水野涼子
(2) アジアにおける“ESD国際カリキュラム”の開発－韓国、中国、タイ、フィリピン、日本での協同開発と実践報告－
大阪教育大学附属高校池田校舎　伊井直比呂
大阪府立北淀高校　大島弘和
羽衣学園高校　米田謙三
大阪教育大学附属高校池田校舎　田中誠一
大阪教育大学附属高校池田校舎　吉村勇治
(3) ドイツにおけるユネスコスクール制度と教師のイニシアチブ
国立教育政策研究所　丸山英樹
(4) ユネスコスクールにおける新カリキュラムの創造－WHE・ESDにもとづく『総合学習』再編の取り組み－
奈良女子大学附属中等教育学校　北尾悟

(5) <持続可能性>と高等教育における授業実践－「地球データマップ」を活用した基礎課程演習のアンケート調査分析－
聖心女子大学　永田佳之

■ **第 10 分科会「東アジアの国際理解教育」：会場 332 教室**

司会：田渕五十生（奈良教育大学）
吉田敦彦（大阪府立大学）

(1) ICT を活用した異文化理解教育－日韓昔話に関するディジタル紙芝居製作を通して－
立命館守山中学校　木村慶太
ソウル大学校　韓敬九
葛城市立磐城小学校　山田幸生
文教大学　今田晃一

(2) 「人の移動」（留学生）をテーマにした日韓中三か国教材開発－インタビューおよび読み物資料を用いて－
近畿大学　服部圭子
Kangwon National University　Han, Geon-Soo
中央大学　森茂岳雄
帝京大学　中山京子

(3) Peace Education in relation to EIU in Korea
Hanshin University　Kang, Soon-Won

(4) 韓国理解を深めるすごろく教材の開発
北海道教育大学　大津和子
北海道教育大学大学院　遠藤沙織
恵庭市立若草小学校　東峰宏紀
恵庭市立若草小学校　田中孝治

(5) 「日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発」－B グループ「人間関係」の研究概要－
上越教育大学　釜田聡
目白大学　中山博夫
漢南大学　許信恵
目白大学　多田孝志
同志社香里中･高校　西村克仁
江別市立大麻東小学校　堀幸美
目白大学　若井知草
APCEIU（アジア太平洋地域国際理解教育センター）金宗勲
Sangdong Junior High School　金多媛
鄭州中学校附属小学校　祖国華

■ **第 11 分科会「開発教育」：会場 333 教室**

司会：飯島眞（越谷市立富士中学校）
藤原孝章（同志社女子大学）

(1) 国際理解教育における方法論の再検討（II）～JICA 国際協力出前講座に注目して～
横浜市立上の宮中学校　中和悠

(2) 高校生による「仮想世界ゲーム」実施報告－南北貿易ゲームを超える ESD アクティビティとして－
大阪市立南高校　辻良隆

(3) 「貧困」から学ぶ国際理解－エンパワーメントの視点から－
上越教育大学　河内嵩史

(4) シリアスゲームで学びは深められるのか～参加型学習における新しい教育方法論の模索～
拓殖大学　石川一喜

(5) 意欲と学力の低い高校生に対する開発教育ワークショップ実践
神奈川県立大楠高校／日本福祉大学大学院　小野行雄

■ 第 12 分科会「多文化共生」：会場 341 教室

司会：風巻浩（神奈川県立麻生高校）
田尻信壹（富山大学）

(1) ボンダンスの繋ぐ過去と未来 - 多文化共生社会ーハワイ州マウイ島から見えてくるものー
国立北九州工業高等専門学校　荒川裕紀
(2) ポストコロニアルの視点から「南の島」を考えるーグアム理解を事例にー
帝京大学　中山京子
(3) 日本統治期台湾の学校教育における植民政策の影響について
新潟市立牡丹山小学校　眞島拓也
(4) 戦前期マニラ日本人学校における現地理解教育ー『フィリッピン読本』（1938 年）の分析をとおしてー
中央大学　小林茂子
(5) 判決書を活用した日韓授業開発研究ーいじめ事件判決の教材・授業研究ー
上越教育大学　梅野正信
(6) 国際交流にチャレンジ「YES WE CAN!! ～せかいなかよしクラブ～」
桜美林大学　宍戸佳子
相模原市立宮上小学校　遠藤悠子

■ 第 13 分科会「シティズンシップ教育」：会場 342 教室

司会：宇土泰寛（椙山女学園大学）
嶺井明子（筑波大学）

(1) イギリスにおける開発教育からグローバル・シティズンシップ教育への転換～順応か新たな展開か～
青山学院大学　服部由起
(2) シティズンシップ教育の知見を生かした小学校における「社会参加型」国際理解教育
鹿児島大学大学院／鹿児島市立中山小学校　藤﨑隆博
(3) 多元的社会における市民性（シティズンシップ）のあり方ー公的・私的議論をふまえた再帰的市民性の構築へ向けてー
桃山学院大学非常勤講師／関西大学大学院　大野順子
(4) グローバルシティズンシップに関する短期大学生の意識調査
関西外国語大学短期大学部　笠井正隆
(5) 高校生のグローバルシティズンシップに関するアセスメント
宮城県仙台東高校　石森広美
(6) 愛媛大学における学生リーダーシップ養成の試み～社会貢献に求められるコンピテンシーの基盤養成～
愛媛大学　泉谷道子

■ 第 14 分科会「コミュニケーション」：会場 343 教室

司会：桐谷正信（埼玉大学）
横田和子（聖心女子大学）

(1) 多文化共生のための地域日本語教育における教材開発ー「ことばと文化」という視点からの教材分析ー
早稲田大学大学院　宮野祥子
(2) 国際交流事業で育むグローバル・コミュニケーション能力ー奈良女子大学附属中等教育学校の実践からー
奈良女子大学附属中等教育学校／立教大学大学院　南美佐江
(3) 異文化コミュニケーション能力の育成に向けた国際理解教育の実践：日本人学生と留学生の授業外共同プロジェクト活動を通して
目白大学　前田ひとみ
(4) 高等学校英語科教員は World Englishes をどのようにとらえているかー授業内での扱いに関するアンケート調査の結果から
明星中学高等学校　和田俊彦
(5) 異文化理解に必要な言語能力とは何か
エアランゲン・ニュルンベルク大学　ペーター・アッカーマン

ランチボックスの追加申込みについて

大会両日とも、昼食の時間は1時間しかありません。大学周辺の商店街には飲食店が多数ありますが、大会当日は混雑が予想されますので、大会事務局で用意させていただいているお弁当を事前に申し込まれることをお勧めいたします。すでに参加申込みをされた方でこれからお弁当をご希望される方は、下記の連絡先までメールをお送りいただきますよう、お願い申し上げます。

昼食の申込みの期日は、6月21日（月）といたします。

※　昼食：1食（お茶付）1500円

代金の一部はNPO法人を通して発展途上国への寄付とさせていただきます。

※　昼食の申込に関する連絡先

日本国際理解教育学会第20回研究大会実行委員会事務局：kokusai@pobox.com

上記のアドレスに標題を「ランチボックス申込み」として、【お名前、ご所属、昼食希望日（3日のみ・4日のみ・両日）】をご記入の上、送信してください。

※　ランチボックス（追加注文）のお支払いは、当日現金にてお願いいたします。

大会申込み・参加費の振込み締切の延長について

大会申し込み・大会参加費等の事前振込みにご協力いただき、感謝申し上げます。大会参加申込みの期日を5月末日、事前振込期日を6月4日（金）にしていましたが、参加申込期日を6月21日（月）まで、事前振込期日を6月25日（金）まで延長いたします。大会参加申込書は、学会ホームページ（http://www.kokusairikai.com/）よりダウンロードしてください。まだお振込みされていない方は、ぜひ事前にお振込みいただきますよう、ご協力お願い申し上げます。

※　下記のとおり事前にお振込みいただいたほうが、当日のお支払いよりもお安くなります。

大会参加費（事前振込み）：一般会員3000円、学生会員2000円

（当日）　　：一般会員4000円、学生会員3000円、非会員5000円

【変更前】参加申込期日：5月末日、振込み期日：6月4日（金）

↓

【変更後】参加申込期日：6月21日（月）・事前振込期日：6月25日（金）

なお、6月10日以降にお振込みされた方は、必ず大会当日の受付にて振込みの確認ができる明細票などをお持ち下さい。大変に恐縮ですが、証明するものがない場合は、受付にて参加費をお支払いいただくことになりますので、宜しくご了解下さい。

大会期間中のご宿泊

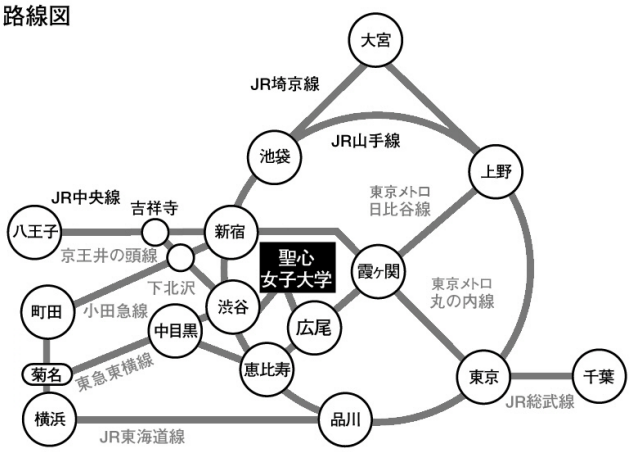
今回の大会は都心での開催となりますので、宿泊施設の紹介は省略させていただきます。

なお、本学の最寄り駅は東京メトロ日比谷線の「広尾」駅です。銀座、六本木、恵比寿などの日比谷線沿いか、渋谷駅近辺の宿泊施設が便利です。

大会会場までのご案内

＊所要時間等は目安です。

路線図



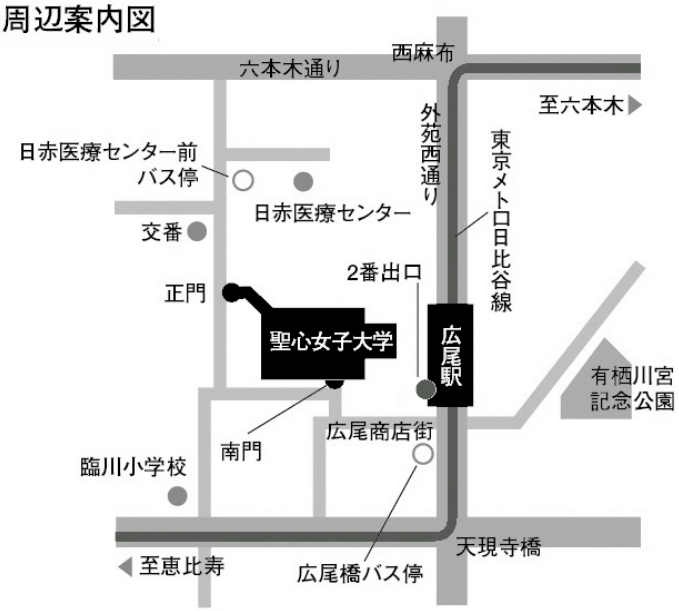
・東京メトロ日比谷線「広尾駅」（2番「天現寺橋(聖心女子大学)方面」出口）下車、広尾商店街を通り約３分

・JR 渋谷駅東口または恵比寿駅より都バス「日赤医療センター前」行 終点「日赤医療センター前」下車約３分

・JR 品川駅より都バス「新宿駅西口」行「広尾橋」下車約４分

・JR 目黒駅より都バス「千駄ヶ谷駅」、「新橋駅」行「広尾橋」下車 約４分

周辺案内図

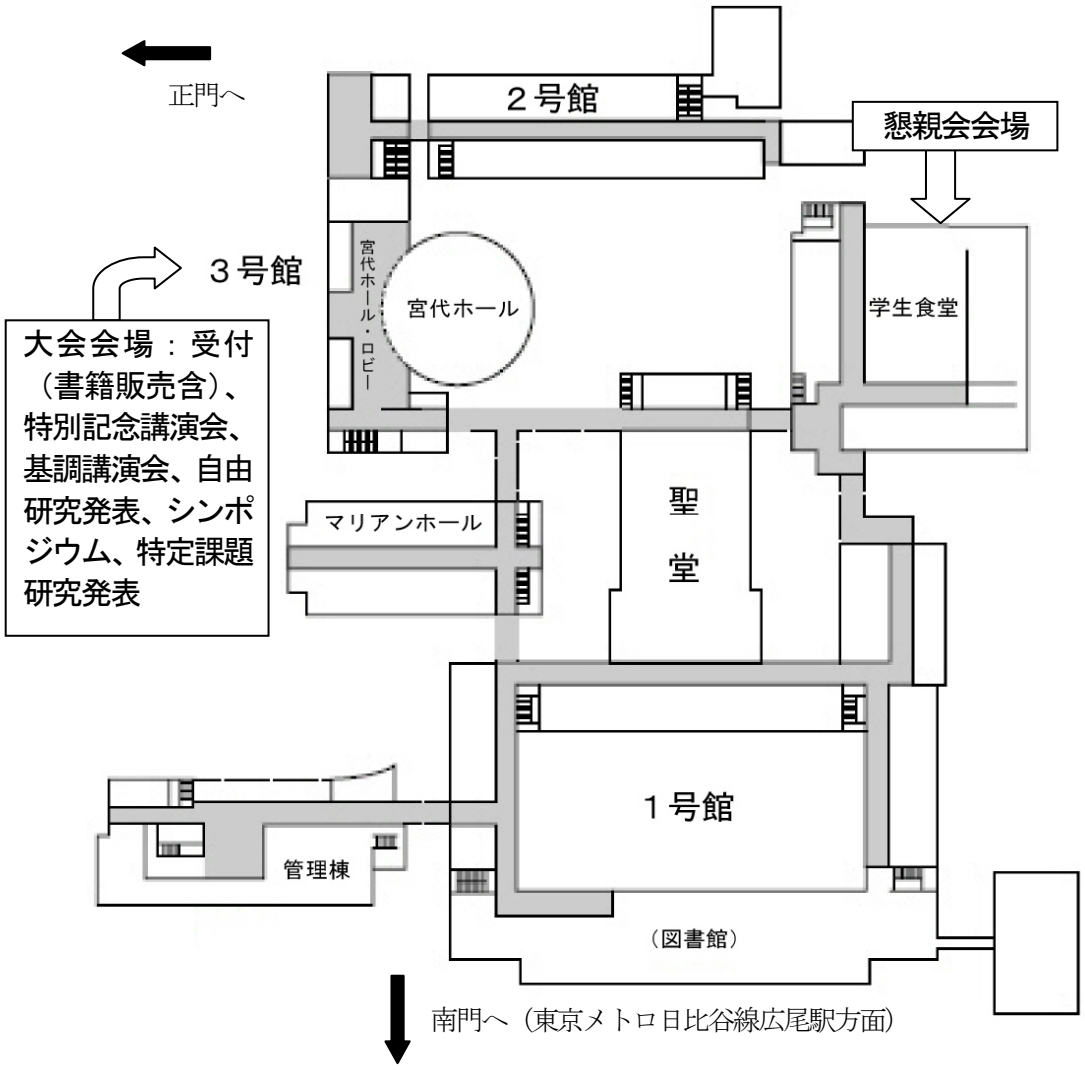


※　会場までのアクセスは本学ホームページよりご覧になれます。

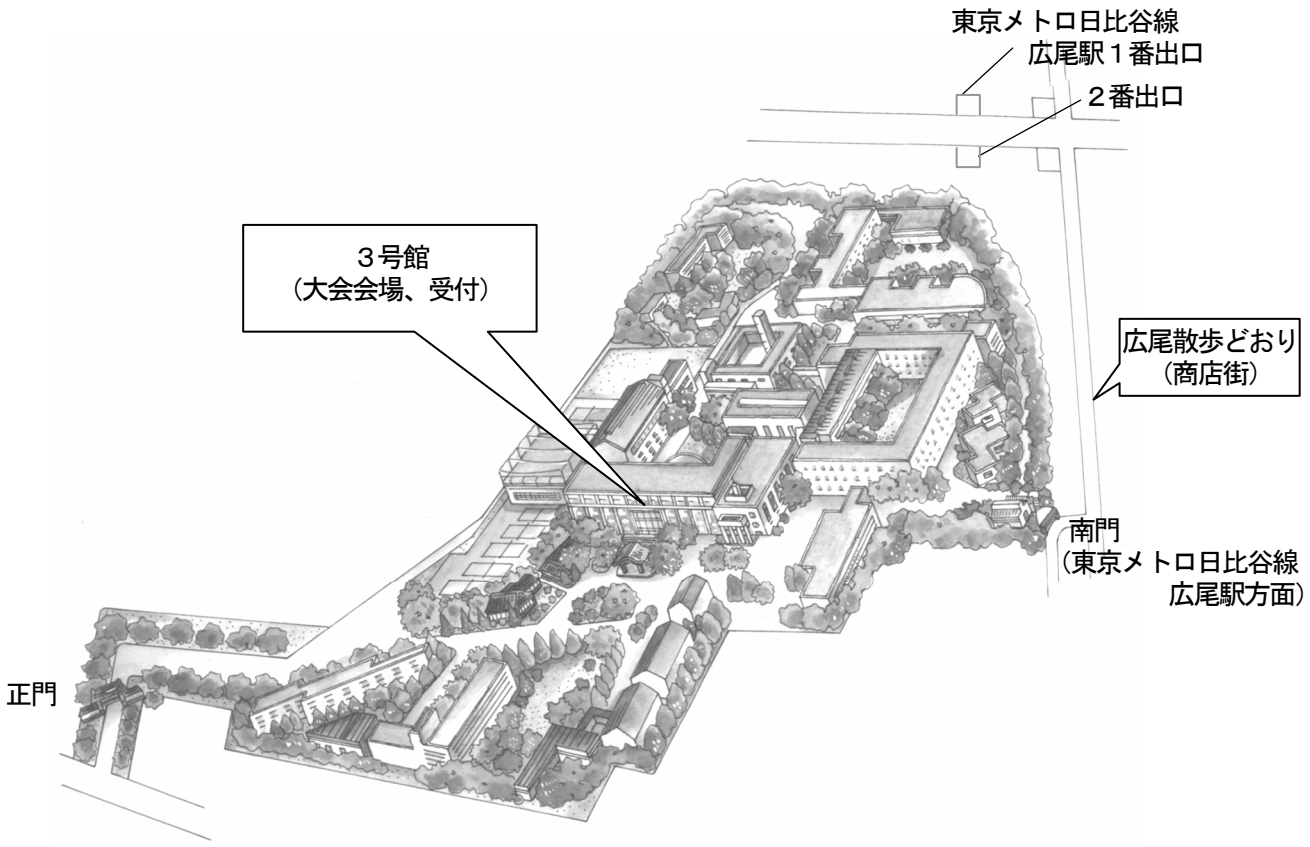
聖心女子大学ホームページ

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/access/

学内案内図


正門へ
２号館
懇親会会場
３号館
宮代ホール・ロビー
宮代ホール
学生食堂
大会会場：受付（書籍販売含）、特別記念講演会、基調講演会、自由研究発表、シンポジウム、特定課題研究発表
マリアンホール
聖
堂
１号館
管理棟
（図書館）
南門へ（東京メトロ日比谷線広尾駅方面）

聖心女子大学キャンパス建物配置図



各種申込み締切期日

6 月 21 日（月）

- 特別企画（本紙 4 頁参照）
- ランチボックス（本紙 10 頁参照）
- 大会参加申込み（同上）

6 月 25 日（金）

- 大会参加費等事前振込み（本紙 10 頁参照）

大会参加申込書および郵便局振込票の記入例は、学会ホームページ（http://www.kokusairikai.com/）よりダウンロードしてください。

日本国際理解教育学会

第 20 回研究大会

2010 年 7 月 2 日（金）特別記念講演
2010 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）

〒150-8938　東京都渋谷区広尾 4-3-1
聖心女子大学文学部教育学科　永田佳之研究室気付
日本国際理解教育学会第 20 回研究大会実行委員会
Tel&Fax. 03-3407-5914
e-mail:kokusai@pobox.com
学会公式ページ http://www.kokusairikai.com/